



三十一

服部文庫
117
109
2



教皇のふく臣の巻



君侯の弱年の由事世に忠誠を以てし取らば
 以ては名譽の君と作らば成るべき事なり今更さるは
 致感心なりとく得ん意は通り一國の治亂は民の憂喜ハ
 君侯の徳不徳に由りし事不及以上一人ごふよりしり
 事事あり何うありとく上二人のようしりぬと時あり
 事りものつゝ成る理は古今無く俄に又及以上大人君の
 心の非と擗りし事ありとく世に職を以ては何れも
 唯君とて取らば成るべき事上の忠誠莫大の大切なり
 今世に取らば成る志とて人いぬる事ありとく外

貴公もは、希代の忠臣とありし、此府の主人君の徳を先角
眞實心より自己の善と好む心と、此陳成りし外、方々
万般具生る愛心、少自己の善と好む心と、自らむく、
非邪正の道理と自己の心、此勝て、毎ふ、
是非邪正の境と自己の心、
此益學問と此進め、
此心、
事、
事、



此極意、
此取、
可、
問、
乞、
乞、
師、
合、

愚者だけの不測は成了簡小の望いまい然又博識言徳の
人つてもあま諒有るべきなり

追々此の事此れ扱ひて篤く此物考成るる不角上下一和
を致しては何の事もあらず何卒一和の事なり
忠之は忠思為く通に難き付あ先は及ぬ徳の
より致成り成程上下一和を致して是致成程の
より古今昔あえあらず但し是も極意のふ人君と補
相との徳量かかりいりり論をなす吾調法忠時此の
了第に毎ぐはは言ひ先以人交りいき賤者少知ありの文
亦小克絶るべきなり先施の先へ施すこと後を文

接向ともむ先我方よりあのけ志むけりり
今より親まれいなり先の方より親み人より親れ
入るなり先の方より致ひる事人のあふは是れ
は得先人小よきは致りりは度なきこと
職しる格縁は不ぬ家より一二の由身分をいなる得る
貴賤と一時はは身分貴きを由席より以下は皆賤を重
ひ安んぬ然る下り上り下小くご方より無上の徳小致り
是事天地の道も天を下りふり地を上り不
天は地を陰陽の氣文りふり地は天を生育不
致る仍し上下の夾りの調ひはまの上が初小のなること

それゆへに、徳のなき人々の前へおのれをあらわす方より、まづ是
と申す換抄書に、徳なき方より、まづそれへとて、徳なき
おのれをあらわす方より、まづそれへとて、徳なき
初より、和すも上より、下小和すが、初より、徳なき熱て人
情は、賤い貴き不察せられ、おのれをあらわす方より、まづそれへ
かる、智慧の人小悦んば、自然より、徳なき熱て、上
下より、親むとす、老い知り、かつくと、待て、上より、先施
かく、老より、先施、かく、い、下より、親む、使を、知り、かつく
一手、使を、い、徳、時、上下、志、切、お、互、ふ、み、く、く、とい、り、徳
を、お、付、の、ふ、い、お、付、の、は、き、い、徳、を、の、初、め、徳、を、お、付、の、

不和の元より、徳なき熱て、人嫌とい、い、い、人よ、ま、ま、ま、ま、
い、人よ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
づ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
取、た、る、人、小、徳、なき、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
真中、小、立、る、役、人、と、い、ふ、小、徳、なき、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
権、と、い、ふ、役、小、居、り、の、い、い、其、徳、主、君、也、は、い、い、い、い、い、い、
と、い、ふ、志、は、お、の、れ、の、い、い、と、い、ふ、志、は、お、の、れ、の、い、い、
と、い、ふ、志、は、お、の、れ、の、い、い、と、い、ふ、志、は、お、の、れ、の、い、い、
聞、い、と、職、と、守、る、や、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、
聞、い、と、職、と、守、る、や、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、徳、なき、

人君、民の父母と申すは、主君も先く父母の心持と能く
兼て教りて肝要の儀と心得りて切用を精力の盡し
學術は向ひて成るるは取ひて成るる免角時世の俗習
よて主人の學問は政道理分明に成りていりて教誨地
兼て儀只今を去りては亦成りていりて成るるは
て成るる人々迷惑づりて是は是の成るるの成るる
尤も存ん是一世の俗情元より淺く成るる官より
事よりて是非の成るる仁智の徳も勇と力
去りて不行りて成るる成るる成るる成るる成るる
と成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる

人々の節の内不すまひの成るるとの成るる成るる成るる成るる
彼もまた家より後よりありて成るる成るる成るる成るる成るる
家が楝うらむり、上道具柱うり、戸障子唐紙かき
中道を縁安居禊はく土基廻り、下成るる成るる成るる成るる
所め何斗上中下の道具材木より、いりて上層禊
P此等いりて一日も雨風の凌ぎ成るるP仍り上中下の
材木たしむばひの成るる成るる成るる成るる成るる成るる
りいりて成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる
成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる
住居の成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる成るる

自心より是非邪正のわづらひけきくも時ハ不わづらひ
たどのみまるとさざりかぐらその善分別は破れおほの
下りて供く朽腐りいふりかきくも純は不自己いふら恐
れ慎みあつりおれらとや所より其道理のふるまひ問と導
ふめのさゆふま然人君の明哲ふあられいそく下たるあ
い身安樂なる根えあきくも是と迷惑をな人い何とも
ありおらふ至愚の人いおほのわらおれらる人くまはら損
着お成まじくいおとて善政をな立し村い賢知の人の後
いおれらとと目苗ふお取よりまおの人も此方よりそれ
くおを扱ひをいおらるるて其う言と用ひの年い

は善い言と擧げ不能と教いさ上より人の心得法
いおれらら王君と明哲いさいおの風を根より吹
おろしとくお味のそ本い其風ふおびさおらやうに
お成のいさつのおふたさよ君の明哲と悦ひお教うる
お成よのおおまらる老弱のめて長崎よ遊まわさい
笑いなる儀目前よおくいお町人一家内証のわはゆけ
と好きくおいお所いお家よさ医者お病いといさ
お町家の其まよと念頃おお成彼ふけけとすさ中い成
見のて者くお見と取いお付まらまをおあ一家
内ふけとは度お付いお妻子を使いたお憤りりて

詮のき醫者が疎へ糸の主人のやけけとやめさせりて彼
是と申合ひろくごんそとて一終ふを醫者と其主と
と申ふひのぬ夫より又くやけけとていひしよあ成の時
又例の河豚とかひ求めて一家内打あな分少くは
果して毒よりいりて今主妻より使れ七八人皆く使れ伏
し申ひ望むるなり望まざりて申戸と不開り付迫り
あやと氣を付えりて又指板も其申すてり終の
よりいさざり倒せぬ今くの河豚の毒よあてり終は
あてり内よふでうち一人甯の前伏しぬ是のみ息
よひの付らぐの毒と解しぬ一人毒がぬ糸と申して

糞を用ひぬれ暫くして是は合ふのみぞり申其者
聞ひ今日の家内打あなけとていひ私にのけ終の
醫者の申ひををね一たふ申ひををい主人夫婦
大まといりていふとていふのとかこれ一人ていふ申と
あうこれい申喜是非かこて終りいそとかくしてす
い申ひのぬあなけとていひ申ひのぬあなけとていひ
人の申ひのぬあなけとていひ申ひのぬあなけとていひ
うい申ひのぬあなけとていひ申ひのぬあなけとていひ
生とあなけとていひ申ひのぬあなけとていひ申ひのぬ
てうちいあて毒とかく終りぬ糸とていひ申ひのぬ

